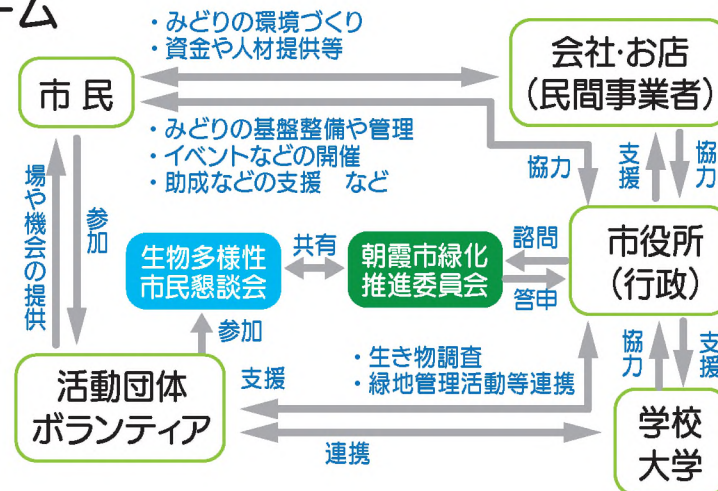


1. 朝霞のみどりを一緒につくるチーム

目標の実現には、市民、ボランティア活動団体、民間事業者、学校、行政など、朝霞に関わるみんながチームになることが大切です。それぞれの強みを生かし、力を合わせて、朝霞らしいみどりを未来へ育んでいきましょう。



2. 進み具合の確認と改善

(1) 計画の進み具合を測るものさし

計画が着実に進んでいるか、客観的な目標（指標）で確認します。

目標項目	現況値	令和7(2025)年度末	現況値	令和17(2035)年度末
みどりの満足度 「そう思う(1.0)」～「そう思わない(-1.0)」 までの5段階評価の平均		0.29		0.30
市域に占める緑地の割合		21.5%		22.4%
一人当たりの都市公園の面積		2.13㎡/人		3.16㎡/人
公園の利用頻度		30.9回/年		31.9回/年

(2) みどりの「チカラ」を確かめる

みどりが持つ多様な効果が、実際に発揮されているかを継続的に調査します。最新のデータや市民の皆さんの声を合わせ効果を検証します。

(3) 社会の変化に合わせた柔軟な見直し

この計画の推進にあたっては、年度ごとに事業進捗を整理し、朝霞市緑化推進会議において検証を行います。また、社会情勢の変化やグリーンインフラの効果検証の結果を的確に反映させるため、「P(計画)－D(実行)－C(評価)－A(改善)」のサイクルを回し、定期的な計画の見直しを行います。



朝霞市都市建設部みどり公園課

〒351-8501 埼玉県朝霞市本町 1-1-1

Tel : 048-463-0374 Fax : 048-463-9490

<https://www.city.asaka.lg.jp/>

令和8(2026)年4月発行

朝霞市みどりの基本計画

2026 ～ 2035



朝霞市は、便利な都会の顔と豊かな武蔵野の自然を併せ持つ魅力的なまちです。

しかし、この50年で市内のみどりは約15%も減少してしまいました。また、猛暑や豪雨など、近年の気候の変化も私たちの生活に影響を与えています。この課題に向き合い、みどりの保全と活用を総合的に進める計画を策定しました。

それが、これからのまちづくりの指針となるみどりの基本計画です。

今ある大切なみどりを守り、さらに自然の持つチカラを生かしていく。

そんな、より住みやすく魅力的なまちづくりを、この計画とともに進めます。

概要版の構成



暮らしを支え豊かにするみどりの現況

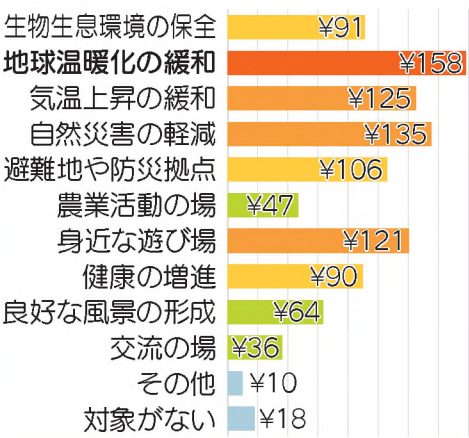
減り続けるみどり

市のみどりは、昭和 48（1973）年には市の面積の 49.8%がみどりで覆われていましたが、令和 5（2023）年には 34.8%まで減少しました。



みどりの現況図

みどりのチカラに
お金を配分するとしたら

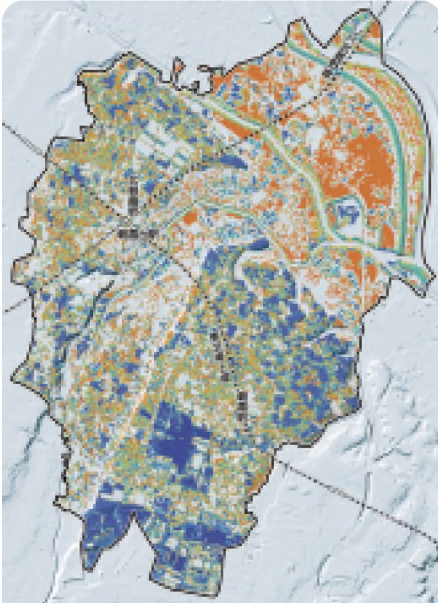


市民アンケート調査において、みどりが持つ様々な機能に対して、総額 1,000 円持っていると仮定したらどのように配分するかという質問を行いました。

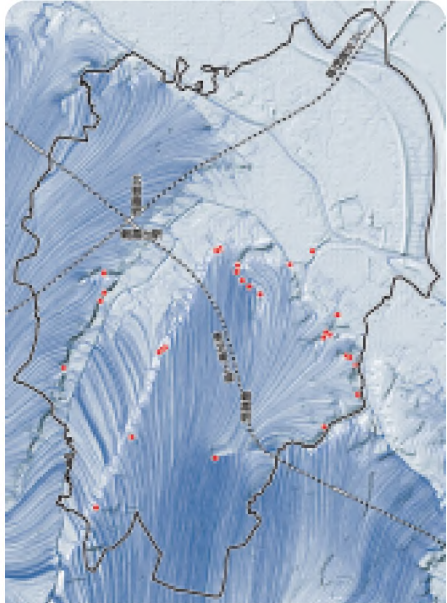
みどりのチカラ

1) 雨水を飲み込ませ貯めるチカラ

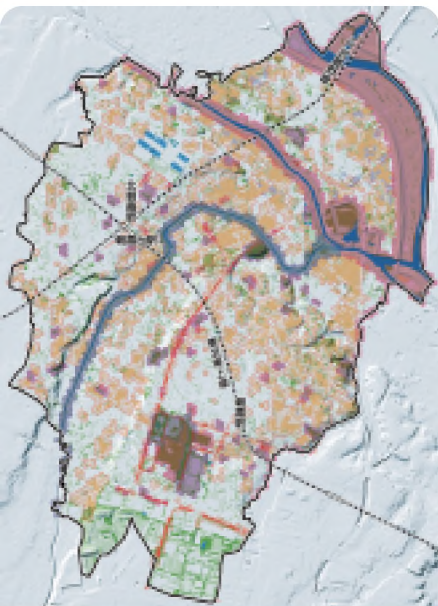
- 台地のみどりは雨水を吸い込み、人工被覆は氾濫リスクを高めます。
- 低地のみどりは、流域の浸水被害の緩和に貢献します。
- 湧水を守る力ぎは台地に雨水を飲み込ませることにあります。



雨水の飲み込みやすさ



地下水の流れ



市民が豊か・魅力的と思う景観資源の分布

5) 風景を彩るチカラ

- 黒目川と基地跡地周辺のみどりが朝霞のシンボルです。
- 斜面林や農地などの身近なみどりも郷土の風景をつくります。

6) 農の恵みをもたらすチカラ

- 担い手不足が農地の減少を加速させています。
- 市民の間で「農ある暮らし」へのニーズが高まっています。

今後取り組みたい緑化活動を問うたところ「市民農園などで野菜や草花を生産する」が 1 位

また、本市のみどりの課題を解決するために、特に重要な取組を重点施策として定めています。重点施策では、その達成状況を測る個別目標を設定します。計画目標は 10 年間の計画期間内で着実な実行を図るもの、将来目標は計画期間内に実行に努め、その後実現したい大きなものを掲げています。

個別施策	重点施策の目標		地域別取組
	計画目標	将来目標	
①特別緑地保全地区の指定 ②保護地区・保護樹木制度の運用 ③指定文化財制度の運用 ④公有地化による樹林地等の確保 ⑤景観重要樹木の指定	特別緑地保全地区の指定拡大 約2.7ha（現況値+0.6ha）	特別緑地保全地区の指定拡大 約3.6ha（現況値+1.5ha）	内間木地域 北部地域 東部地域 西部地域 南部地域
①里山保全活動の推進 ②里山管理ガイドラインの策定	里山管理ガイドラインの策定・運用	里山管理ガイドラインの運用による 良好な自然環境の保全	
①生産緑地・特定生産緑地制度の運用 ②遊休農地の活用促進 ③景観作物の栽培 ④災害時の都市農地の活用			
①湧水地及び周辺環境の保全 ②雨水貯留浸透の推進	雨水貯留浸透施設等の設置推進	水循環の健全化による 湧水源の涵養	
①荒川近郊緑地保全区域における河川環境の保全 ②黒目川・新河岸川・越戸川の環境保全 ③朝霞調節池内の湿地環境の保全			
①身近な公園の適正配置 ②基地跡地公園の整備推進 ③内間木公園の整備推進	まぼり南公園の整備 内間木公園の拡張整備	基地跡地公園の整備	
①防災機能の充実 ②バリアフリー・インクルーシブデザインの推進			
①施設の維持管理の充実 ②維持管理性と美観を保つ公園等植栽管理指針の策定	公園等植栽管理指針の策定・運用	公園等植栽管理指針の運用による 質の高い空間の創出	
①持続的な植栽の在り方に関する検討 ②街路樹の適正な維持管理			
①河川沿いの散策路・親水広場の整備・管理 ②歩道のネットワーク化と管理 ③休息や健康づくりの場の整備	駅西口富士見通線のウォカブル改修	朝霞駅南口駅前通り及び周辺市道のウォカブル改修	
①公共施設の緑化と管理 ②維持管理性と美観を保つ公共施設植栽管理指針の策定			東部地域 西部地域 南部地域
①緑化支援制度の運用 ②まちづくり制度を活用したみどりの確保			
①プレーパークの推進 ②みどりの講習会等の実施 ③環境学習の実施 ④教育分野における農業体験の促進 ⑤食育の推進			
①担い手のマッチング ②ボランティア活動団体の交流の促進 ③民間企業等の参画の促進 ④農の担い手の育成	Park-PFI事業者による 内間木公園の運営	Park-PFI事業者による 基地跡地公園の運営	
①公園サポーター制度の推進 ②市民や活動団体による朝霞の森の管理運営 ③みどりのリサイクルの推進			
①市民農園の推進 ②市民緑地制度等の活用 ③公園ごとの利用ルールづくり			
①グリーンインフラの実態調査の実施 ②市民協働の生き物調査による生物データベースの整備 ③みどりの市民アンケート調査の実施			
①グリーンインフラの多面的効用の評価と公表 ②グリーンインフラの多面的効用に資する緑化指導 ③地域社会に貢献するみどりづくりの促進			
①補助金等の活用 ②みどりのまちづくり基金等の運用	機能維持増進事業の活用	多様な手法による 財源の確保	
①公園におけるDXの推進 ②WEBを活用したグリーンインフラの普及啓発	公園台帳のデジタル化	DXの推進による 公園サービスの拡充	
①みどり空間を活用したイベントの開催 ②里山環境の活用 ③農を通じた交流の場づくり			南部地域
①みどりの情報発信 ②市民イベント情報の集約と発信	自ら情報発信できる オンラインプラットフォームの導入	市民が主体となった みどりの情報発信	
①家庭での緑化や菜園づくり ②農産物直売施設等の利用 ③地産地消の実践 ④みどりを生かした健康づくり ⑤みどりのイベントへの参加	グリーントレイルマップの更新	みどり資源を生かした 健康増進の場づくり	
①みどりのボランティア活動への参加 ②みどりのリサイクルへの参加 ③みどりに係る講習会への参加			
①民間のみどりの公開 ②SNSを活用したみどりの交流			

みどりの
課題

みどりが持つ多様な機能を活かして、まちづくりや地域の課題に対応すること

みどりの減少を抑制し、保全すること

身近なレクリエーション空間を充実させること

朝霞らしい魅力的なみどりをさらに充実させること

みどりの空間をネットワーク化させみどりに親しむ場を充実させること

公共空間の緑化推進と植栽などの適切な維持管理や更新を図ること

みどりの取組

みどりの将来像の実現に向け、3つの基本方針に基づく施策の柱、基本施策、具体的な取組となる個別施策を展開します。具体的な取組を進めるにあたっては、「みどりの指針」に位置づけられるみどりのチカラを理解し、その効果が十分に発揮されるよう工夫することで、みどりの力を上手に生かしたまちや暮らしの実現を目指します。

基本方針

施策の柱

基本施策（★重点施策）

基本方針1

暮らしを支え豊かにする
朝霞らしいみどりを
整える

1-1 樹林地と農地の保全

1-2 水辺の保全

1-3 公園の整備と管理

1-4 道路・河川のみどりの育成

1-5 公共施設・民有地のみどりの育成

基本方針2

みどりを支える
仕組みや担い手を
育て・広げ・つなげる

2-1 みどりの担い手の育成と連携

2-2 みどりをしなやかに使う
仕組みづくり

2-3 みどりの質の向上を誘導し
評価する仕組みづくり

2-4 みどりの支援体制の強化

基本方針3

みどりのある
暮らしを楽しむ

3-1 みどりの
シティプロモーションの
展開

3-2 みどりのある
暮らしの実践

(1) 樹林地・樹木の担保性の向上★

(2) 良好な里山環境の維持・再生★

(3) 都市農地の保全

(1) 湧水の保全★

(2) 河川の保全

(1) 公園の整備推進★

(2) 公園機能の充実

(3) 公園の維持管理の充実★

(1) 街路樹・並木の整備と管理

(2) ウォーカブルな空間整備★

(1) 公共施設のみどりの整備・管理

(2) 民有地のみどりの整備促進

(1) みどりの担い手の育成

(2) 担い手の連携の拡充★

(1) 公園等の管理を通じたまちづくり

(2) 多様なニーズに対応するみどりの確保

(1) みどりのモニタリングの実施

(2) みどりの普及啓発の推進

(1) 財源の確保と活用★

(2) みどり・公園分野におけるDXの推進★

(1) みどりに触れ楽しめるイベントの開催

(2) 情報発信の強化と充実★

(1) みどりを楽しむ★

(2) みどりのボランティア活動への参加

(3) みどりの交流の拡大

2) 涼しさを生むチカラ

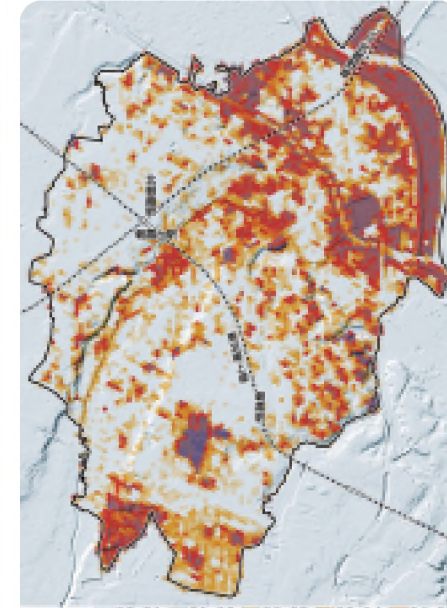
- 大きなみどりは冷気を広げます。
- 樹林地の減少はまちの温度上昇につながります。



みどりと涼しい場所の分布

3) 炭素を蓄えるチカラ

- 市内のみどりは年間約3千トンの炭素を蓄えています。
- 樹林地などのみどりが元気でいることが大切です。



炭素を固定する能力

4) 生き物の命を育むチカラ

- 斜面林や水辺は様々な生き物が生息する拠点です。
- 川や農地などは生き物が移動するための通り道となります。



多くの生物が暮らせる可能性が高い場所

7) 心身の健康を保つチカラ

- 川沿いの遊歩道は充実していますが、住宅地では歩道の連続性が課題です。
- アンケート調査によると、みどり豊かで安全に歩ける道を求めています。

今後の重要な施策を問うたところ「みどり豊かで安全に歩ける歩道空間の整備」が1位、「身近な公園等の充実」が2位、「川沿いの遊歩道の充実」が3位となりました。

8) 健やかな成長を支えるチカラ

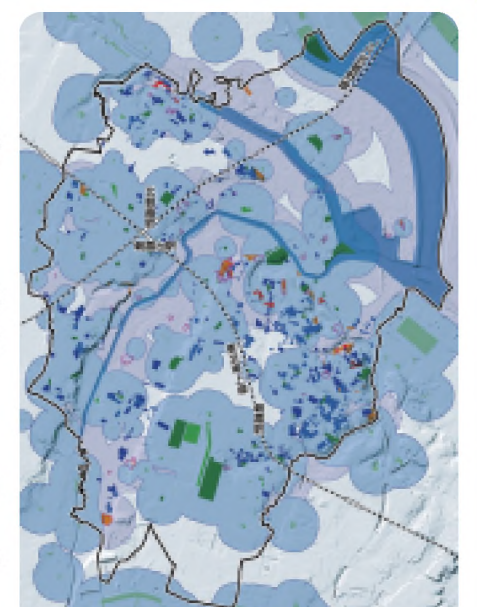
- 身近な公園が不足する地域があります。
- 川などの公園以外のみどりが身近な遊び場として役立っています。

9) 交流を生むチカラ

- 公園に加え広場や河川空間など多様なみどりの空間がまちの活気を生み出すことに役立っています。

10) まちの安全を支えるチカラ

- 高齢者ほど身近なみどりを「命綱」として頼りにしています。
- 公園や都市農地は災害時に役立つ生きた備えとなります。
- 日常的にみどりを使いこなすコミュニティを育むことが地域防災力を高めることにつながります。



公園やみどりの空間の分布

エコアップや都市気候の緩和等に貢献する民有地の緑化を促進すること

みどりの質の向上を誘導し評価する仕組みの検討やみどりの普及啓発を進めること

多様な市民が参加し連携・協働しながら公園緑地の利活用の促進を図ること

朝霞のみどりを生かしたライフスタイルを内外にアピールすること

地域に根付く都市公園として利活用の促進を図ること

農業体験や自然観察、ハイキングなど自然とのふれあいの機会の充実を図ること

1. 基本理念

朝霞市には、黒目川や荒川の水辺、武蔵野の面影を残す斜面林、そして人々の営みを支えてきた農地や屋敷林など、多様で美しいみどりが息づいています。これらは先人から受け継がれてきた大切な財産であり、私たちのまちの誇りです。

みどりは、夏の暑さを和らげ、雨水を蓄えてまちを守ってくれる頼もしいチカラを持っているだけでなく、深呼吸したくなるような安らぎや、四季の変化を感じる喜びを私たちの暮らしに届けてくれます。

私たちは今、このかけがえのないみどりを守り、さらに「眺めるだけのもの」から「誰もが主役となって楽しみ、生かしていくもの」へとアップデートしていきたいと考えています。市民、事業者、行政が手を取り合い、知恵を出し合うことで、みどりと共にある心豊かな日常をみんなでつくっていく。そんなワクワクする未来を目指して、ここに将来像を掲げます。

朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち

2. 基本方針

基本理念に掲げる「朝霞らしいみどりを みんなで育み 暮らしに生かすまち」を実現するために、3つの基本方針に沿って計画を推進します。

基本方針1
**暮らしを支え豊かにする
朝霞らしいみどりを整える**

みどりはさまざまな役割を持っています。雨水を地面にしみ込ませて洪水を防いだり、木陰でまちを涼しくしたりする自然の力を、これからのまちづくりに上手に生かしていきます。今あるみどりを守り、新しいみどりを生み出し、適切に手入れすることで、朝霞ならではのみどりの質を高め、より豊かな環境をつくります。

基本方針2
**みどりを支える
仕組みや担い手を
育て・広げ・つなげる**

昔から大切にされてきたみどりそのものはもちろん、それを守ってきた市民の活動や、長年積み重ねられた知識・ノウハウは、朝霞市にとってかけがえのない財産です。このみどりの財産を大切に育てながら、活動する人同士を柔軟につなぎ、協力の輪を広げることで、みんなでみどりを支えていく仕組みを強化します。

基本方針3
**みどりのある
暮らしを楽しむ**

みどりが私たちの生活にどれほどの価値や豊かさを与えてくれるのか、その魅力をより多くの人に知ってもらう機会をつくります。眺めるだけでなく、実際に触れ、体験し、日常生活の中でみどりを身近に感じて楽しむ。そんな、みどりと共にある心地よい暮らしを、まち全体に広めていきます。

3. あさかのみどりの魅力を楽しむ指針（グリーンプロモーション指針）

この指針は、みどりがもたらす多面的な恵みを分かち合い、次世代へと続く持続可能な暮らし方を提案します。



個人のみどりをまちの宝へ

大学のキャンパスや寺社の境内など、民有地にある貴重なみどり空間を、地域の財産として位置づけ、公開や活用を促進します。所有者、地域住民、行政が連携し、公開のルールづくりやイベント企画を行うことで、新たな交流拠点や景観資源を創出します。個人のみどりが地域の価値を高め、ひいてはまちの魅力向上に繋がるという好循環を育みます。

まち全体の価値向上

地域の魅力向上

個人のみどり

みどりの指針（2）

2. みどりを支える仕組みの指針（グリーンマネジメント指針）

この指針は、みどりの財産を未来へ育み、多様な人々が連携してその価値を最大限に生かすための考え方を示します。またこの指針は4つの柱で構成されており、それぞれがバランス良く機能することで持続可能なみどりのまちづくりを目指します。

支援体制を充実する

多様な財源の確保と
運用の強化

多様な主体の連携

市の関係部署が協力し合う体制や、市民・企業・行政が連携するプラットフォームを充実させ、まち全体でみどりを支える体制づくりを目指します。

DXの活用

公園の管理や情報発信にデジタル技術を導入し、サービスの拡充を図ります。

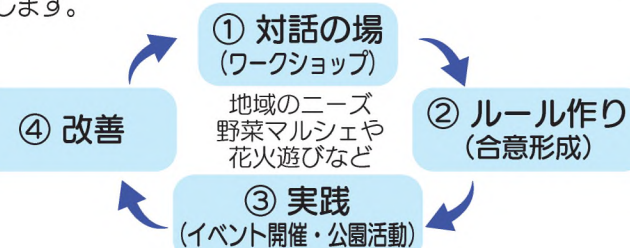
みどりを使いこなす

公園等の市民協働
管理と魅力向上

市民や地域活動団体が主体的に関わり、魅力的な空間として育てる仕組みを構築します。

多様なニーズに対応するみどりの柔軟な活用

公園ごとの利用ルールを地域の実情に合わせて検討し、柔軟な運用を可能にすることで、多様なニーズに対応する環境を目指します。



参画の環を育む

みどりの担い手の育成と裾野拡大

自然の中で遊べるプレーパークやみどりの知識を学ぶ講習会などを通じて、新たなみどりの担い手を育てます。

担い手間の
ネットワーク構築と協働促進

市民や団体とみどりの場所や企業などを結びつける仕組みを作り、大きな参画の環を広げます。



みどりの価値を学ぶ

みどりのモニタリング

グリーンインフラの実態調査や生き物調査、みどりの市民アンケート調査を通じて、みどりの現状を正確に把握し、計画の進行管理や見直しに生かします。

みどりの多面的なチカラの評価と普及啓発

みどりが持つ様々な働きを、誰もがわかるように「見える化」し、共有する仕組みを検討します。

将来のみどりの骨組み（みどりの配置方針図）

葉っぱ＝みどりの基質

（身近な公園、農地、まちなかの小さなみどり等）

花や果実＝みどりの拠点

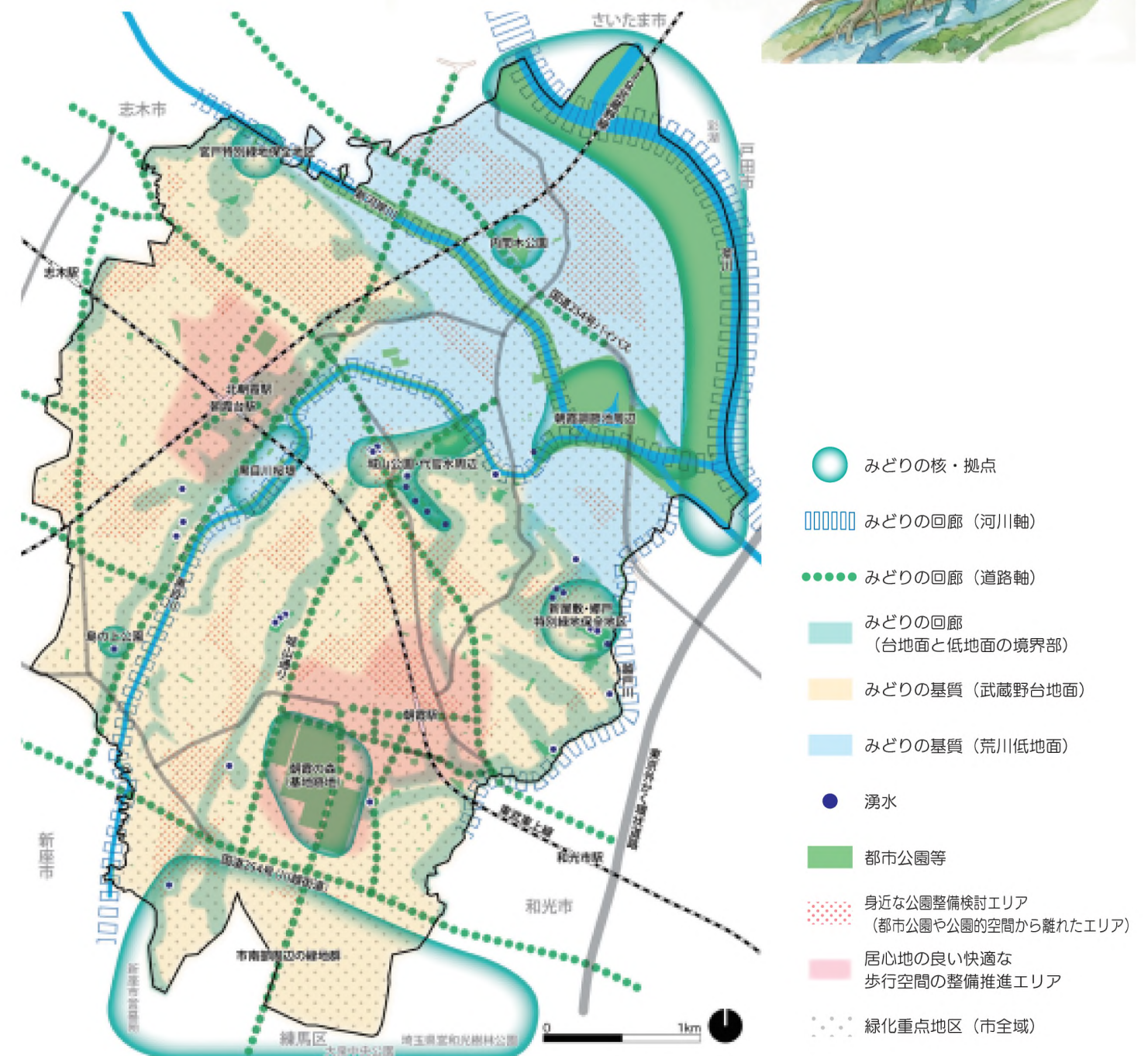
（基地跡地・城山公園、斜面林等）

幹や枝＝みどりの回廊

（黒目川、新河岸川、街路樹、地形のひだ等）

根＝みどりの核

（荒川の水とみどり）



みどりの指針（１）

1. みどりのチカラを上手に生かす指針（グリーンインフラ指針）

この指針は、自然が持つ多様な機能を「都市の基盤」として賢く活用し、安全で快適なまちづくりを進めるための指針です。朝霞の特性に応じた以下の10の視点で、みどりの質を高めていきます。

1) 健全な水循環を支えるみどり（雨水を浸み込ませ貯めるチカラ）

土や植物が雨水を地面に浸透させ、一時的に蓄えることで、河川への急激な流入を抑えて水害を和らげます。また、地下に浸み込んだ水は、湧水の源となります。

みどりを守る

雨水を一時的に貯める・地下に浸透させる



屋上の緑化



雨水貯留浸透
植栽基盤

透水性舗装の採用



雨水貯留碎石層
調整池の整備

2) 都市の気温上昇を緩和するみどり（涼しさを生むチカラ）

樹木の木陰や葉からの蒸散作用によって、まちの温度上昇を抑えます。アスファルトの照り返しを和らげる「天然のエアコン」として、心地よい風の通り道をつくり出します。

みどりを増やす

みどりを守る

みどりで効果的に冷やす

建物の南側や西側に緑陰を配置
屋上・壁面の緑化
みどりのカーテンの設置
池やせせらぎの配置
遮熱性舗装や保水性舗装の採用

3) 地球温暖化の緩和に貢献するみどり（炭素を蓄えるチカラ）

植物は成長する過程で二酸化炭素（CO₂）を吸収し、酸素を生み出します。みどりを守り増やすことは、地球規模の課題である気候変動を抑えることにもつながります。

みどりを増やす

みどりを守る

炭素固定を促進させる

剪定枝等の有効利用 木材利用の促進
バイオ炭の活用

適切な里山管理を行う

木が密集しすぎないように間伐を行うことで、残った木に光と栄養が行き渡り、樹林が元気に育つことで二酸化炭素（CO₂）をたくさん吸収できるようになります。

4) 生き物の生息場所となるみどり（生き物の命を育むチカラ）

多様な生きものが住める場所を整え、それらをつなぎます。まちの中に豊かな生態系があることは、私たちの暮らしの健全さを保つことにもなります。

エコロジカルネットワークをつくる



立体的なみどりをつくる

朝霞本来の
生き物を
大切にする
(在来種の優先的利用、
外来種対策)

異なる自然の境界をつくる



5) まちの景観・郷土の風景を形成するみどり（風景を彩るチカラ）

朝霞らしい美しい景色をつくっているみどりを守り育て、その魅力を未来へ引き継ぐことを目指します。特に、黒目川や朝霞の森周辺のみどりは朝霞のシンボルであり、自然と触れ合える貴重な場所です。また、武蔵野の面影を残す斜面林や農地の風景も、失われないように守っていきます。

6) 農業活動の場となるみどり（農の恵みをもたらすチカラ）

農地は、新鮮な野菜を作るだけでなく、生き物のすみか、美しい景観、交流の場、災害時の避難場所といった、たくさんの大切な役割を持っています。これらを保全し、次世代へつないでいくことを目指します。

農業を続けられる環境づくり

農業体験の推進

食育の推進

市民農園の利用拡大

地産地消の推進

農を通じた交流拡大

7) 健康づくりの場となるみどり（心身の健康を保つチカラ）

みどりのなかを散歩したり体を動かしたりすることは、ストレスを軽減し、心と体の健康を保つ助けになります。途切れた歩道の接続や木陰の整備により歩きやすくし、まち全体の健康資産を充実させます。

歩道をつなげる

木陰、照明、ベンチ、
案内板などを整備し、
バリアフリー化を進める

健康づくりに役立つ公園にする

足腰を鍛えるコースや植物で
癒やされる場所など、健康づ
くり役立つ公園を充実させ
ます。

8) 身近な遊び場となるみどり（健やかな成長を支えるチカラ）

こどもたちが土や植物に触れ、自由に遊べる場所は、豊かな感性と創造力を育みます。日常の中で自然を五感で感じられる、安全で楽しい遊び場を整えます。

身近な公園を充実させる
(公園未整備エリアの解消)
(立体都市公園制度等の活用)

今あるみどりを生かして
遊び場を作る
(川沿いや林、神社やお寺など)

公園を直し役を見直す



10) 防災拠点となるみどり（まちの安全を支えるチカラ）

公園や緑地は、災害時の避難場所や延焼を防ぐ火災の障壁となります。いざという時に市民の命と安全を守るまちの備えとしての機能を強化します。

公園整備を進める

みどりのストックを
活用する

公園の防災機能を高める

